

市民協働推進センター運営事業について

市民協働推進課

令和7年3月21日

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

横浜市市民協働推進センター 2024年度事業報告



6つの機能

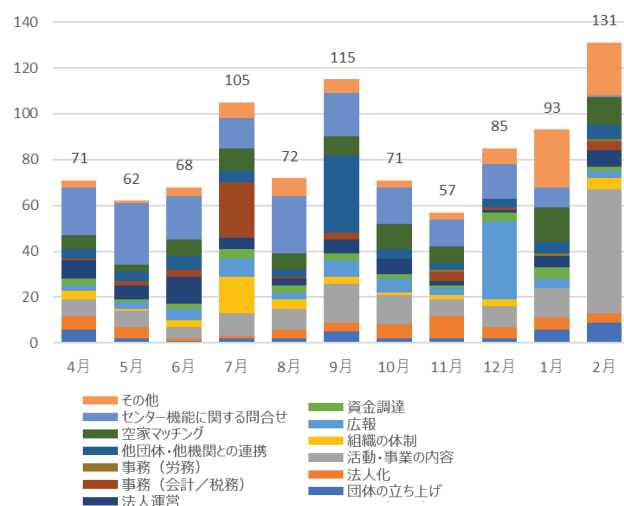
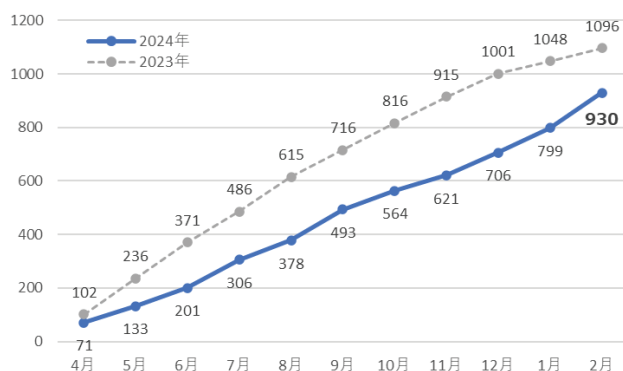


1. 相談・提案する（総合相談事業）

総合相談
事業

1-1. 総合相談窓口

行政、市民団体、企業、大学など、様々な主体との協働について相談・提案をワンストップで受け付けるために総合相談窓口を設置し、相談対応や伴走支援、他団体とのコーディネートに繋げ、市民協働提案や団体設立、組織運営の強化を図ります。（目標：相談件数1,000件／年）



1. 相談・提案する（総合相談事業）

総合相談
事業

1-2. 市民協働相談会 計42名

市民協働相談会は、テーマについて悩みや関心のある参加者が、協働コーディネーターやゲストの話、参加者同士の交流を通して、気づきやヒントを得る機会となることを目指しています。



①7/30：「若手人材が楽しく活躍できる組織を目指して」

ゲスト：坂田美絵氏（NPO法人街の家族 理事）、コーディネーター：楯晃次氏（株式会社EMA 代表取締役）

アンケートより：「コミュニケーション上の意識や、組織として重要な要素、他にも、多くの繋がりを得ることができた」、「団体の課題に改めて向き合うことができた」



②9/2：「地域でつながり、まちを元気に～こども園の地域連携事例から学ぶ～」

ゲスト：石井雄輝氏（関東学院のびのびのび園 地域連携専任教諭）、三谷大紀氏（関東学院大学教育学部こども発達学科 准教授）

コーディネーター：原美紀氏（認定NPO法人びーのびーの事務局長）

アンケートより：「地域とつながる方法のヒントを得ることができた」、「こども園と地域がつながることでもちが元気になるということを理解できた」、「グループワークで他の参加者と励まし合うことができた」



1. 相談・提案する（総合相談事業）

総合相談
事業

1-3. 市民協働提案事業の相談・伴走

●行政によるテーマ設定型

①「Yokohama Pride Circulation Project」

提案者 YPC（Yokohama Pride Circulation）Project / 協働先 消防局企画課

消防士が現場で人を救ってきた消防服・消防ホースをアップサイクルし、横浜市民の普段の生活を支えるグッズに生まれ変わらせる。地域での販売やクラフトワークショップを開催することにより、市民の防災意識向上のための啓発を行う。

②特殊詐欺防犯啓発イベント「だまされないプロになろう！～横浜市全18区実施～」

提案者 表現のチカラ / 協働先 市民局地域防犯支援課

シニア世代に向けた楽しく面白い舞台表現で構成される防犯啓発のステージイベントを行う。舞台に地域の表現者が参加することにより、舞台を契機に特殊詐欺の防犯啓発が出来る仲間を作り、被害に遭いやすい「他人事」の地域住人に働きかけ、詐欺被害を「自分事」にして防犯意識を身につけてもらう。

●従来型

①外国人親子と地域をつなぐ図書館でのアウトリーチ活動

提案者 NPO 法人Sharing Caring Culture / 協働先 国際局政策総務課、教育委員会事務局中央図書館

子育て中の外国人家族の孤独な育児の解消及び情報格差を埋めることを目的として、図書館でのアウトリーチ活動を実施。法人の外国出身者を講師とした「外国語のおはなし会」をきっかけに外国人家族が地域の情報が得られるように情報支援をするとともに、地域の図書館の多文化環境の整備の一つとして、多文化紹介の企画展を実施。図書館という社会的なインフラだからこそ、外国出身者が気軽に足を運べる環境づくりを目指す。

②横浜市内中学校における、地域や企業と連携したキャリア教育（＝自分づくり教育）の推進

提案者：特定非営利活動法人アスリード / 協働先 教育委員会事務局小中学校企画課

横浜市内中学校の「自分づくり教育」取り組みの現状と課題を学校と地域企業等がともに共有し、「自分づくり教育」を推進する、学校×地域のあるべき連携・協働の形や可能性の模索する。最終的には横浜市内のどの学校でも、その状況に合わせて「自分づくり教育」を実施・コーディネートできるような、地域と学校をつなぐ支援体制の構築を目指す。

2. 知る（情報の蓄積・活用・発信事業）

情報発信

2-1. 情報発信

メルマガ配信数：**4,506名**↑（2025年1月配信数）※前年同月数：4,217名

SNSフォロワー数：Facebook：**871名**↑ X：**214名**↑ Instagram：**397名**↑

（2025年2月18日現在）※前年度3月末数 Facebook：774名、X:138名、Instagram：260名

目標達成予定：メルマガ配信者数前年度比5%増、自治会町内会や市民団体等の協働好事例取材・発信3件

2-2. 情報誌発行

センターの取組や協働事例の紹介など、センターのさらなる周知と協働推進を目的に発行（3月発行予定）

2-3. HP再構築

メニュー構成やコンテンツの見直しを行い、利用者視点で使いやすいHPへ
2024年12月全面リニューアル実施

2-4. PR動画制作

潜在的活動者へのアプローチ及びセンター周知を目的に制作（来年度より活用開始）



3. 学ぶ（人材育成事業）

人材
育成事業

3-1. 市民協働スタートアップ 計56名

協働を理解し、社会・地域課題の解決に関わる人材を育成するために、協働の歴史や横浜コードに関するレクチャーや、事例紹介、チームビルディング、フィールドワークに関するレクチャー、実際の現場でのフィールドワークを含む連続講座を実施しました。

- ①5/29 「市民協働とは、横浜コードから今まで」（中島智人氏・産業能率大学教授）
- ②6/12 「一緒に取り組むことは」（伊吾田善行・市民協働推進センター長）
- ③6/19 「地域を知るためのフィールドワークとは」（那須聖氏・東京工業大学教授）
- ④7月～9月 「フィールドワーク」：港北区、泉区、緑区



3-2. 他都市視察&好事例共有セミナー（新規）

中間支援を担える団体及び人材を育成するため、他都市を視察の上、その事例を活用し、コーディネート等に関するスキルを学ぶセミナーを実施しました。

■他都市視察

日程：11月11日～12日、参加：市民協働推進センターセンター長、副センター長、市民局市民協働推進課センター担当係長、担当職員

視察先：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）、ひょうごコミュニティ財団、京都信用金庫 QUESTION、京都市民活動総合センター

■他都市好事例共有セミナー 計63名

「クリエイティブ思考x社会課題～横浜を豊かにする種を考える～」

日程：2月27日（木）14:00～16:30 場所：市民協働推進センタースペースAB

4. 出会う（交流促進事業）

交流促進
事業

4-1. ミズベサロン 計25名

設定したテーマに関心のある方たちが、対話をとおり考えを共有しつながら場としてミズベサロンを開催しました。

日時：12月23日（月）17:00～19:00、場所：市民協働推進センタースペースAB

テーマ：「つなごう！立ち上がった10代の声が届くように」活動紹介＆交流会

発信者：起立性調節障害を当事者から広める会「子どもの輪」、不登校当事者グループ「リスボン」、若者×社会貢献活動×スポーツ「HpRun」

アンケートより：「若者たちの発想力、行動力、未来への展望が想像をはるかに超えていて、自分の困り事を社会課題として行動に変えられる能力の高さに大いなる学びを得た」「若者自分自身に向き合い、チャレンジしてる姿にいち大人として純粋に感激した」



4-2. 協働HUB 計8組織

市内の公益事業者同士でお互いの事業や強みを知り、交流する場をつくりました。人的ネットワークを広げ、今後、活動者の支援を領域を横断し、支援していけることを目指しています。

日時：2月5日（水）16:00～18:00、場所：市民協働推進センタースペースAB

参加者：SDGsデザインセンター、男女共同参画センター、横浜市国際交流協会YOKE、JICA横浜、横浜市立大学ボランティア支援室、かながわ福祉サービス振興会、横浜市社会福祉協議会、市民協働推進センター

テーマ：「公益事業者交流会 領域横断で、一緒により良い横浜市をつくりましょう」

アンケートより：「組織名は知っていたが直接話をする機会は無かったのだとても良い機会だった」「連携によって取組の広がりにつながることがよくわかった」



4. 出会う（交流促進事業）

4-3. ヨコラボ2024

協働・共創をさらに広げるため、ヨコラボ2024を開催しました。市民協働推進センターでは、市民協働シンポジウムを下記の通り主催し、課題解決に向けて様々な立場から関わる重要性や有効性について対話から考えました。

日時2024年10月31日（木）、場所：アトリウム、市民協働推進センタースペースAB

■第1部シンポジウム：10:15～12:15 計70名

テーマ：「ヤングケアラーに寄り添う社会へ～ともに取り組む社会課題～」

登壇者：講演：蔭山正子氏（大阪大学教授）

取組紹介：佐塚玲子氏（NPO法人よこはま地域福祉研究センター）

モデレーター：横山恵子氏（横浜創英大学教授）



■第2部ラウンドテーブル：13:30～15:00 計44名

テーマ：「第一部を受けて、自分たちにできること、一緒にできること」

アンケートより「ヤングケアラーについて初めて話を聞くことができた」「孤立防止が大事、気持ちに寄り添う等大変勉強になった」「子どもの気持ちを考える大切さがわかった」「私自身、3人の子どものうち1人は障害息子、ヤングケアラーの言葉が出てきてから社会的に責められている、悪者にされている印象が強く、心苦しかった。自分の中でのもやもやの正体を知りたく、そして少し晴れた」



5. 学ぶ（市民活動支援事業）

市民活動
支援事業

5-1. 市民活動入門&基礎強化セミナー 計16人

市民活動やNPOの基礎知識、社会的意義や心構え、基礎強化につながる中長期ビジョンの必要性などを学び、市民活動団体が自立的で中長期的な活動・運営ができるようになることを目指しました。

「にしく市民活動支援センター（にしとも）」との協働開催

日時：3月13日（木）10:00～12:00、場所：にしく市民活動支援センター（にしとも広場）

5-2. 市民活動基礎セミナー 計47名

市民活動団体の組織基盤強化につなげるため、活動に必要な「会計」、「PR」に関する講座を行いました。

「会計セミナー」講師：吉澤寿朗氏（NPO法人税理士による公益活動サポートセンター）

日時：7月17日、場所：市民協働推進センタースペースAB、参加者：21名

アンケートより：「基礎から説明していただき会計についての理解が大変深まった」、「課題検討の時間が有意義だった」

「PRセミナー」講師：真下聡氏（元朝日新聞記者）

日時：12月4日、場所：市民協働推進センタースペースAB、参加者：26名

アンケートより：「団体が伝えたいことと記事を書く人の視点が異なることに気づいた」、

「講義だけでなく、グループワークがあったことで他の参加者から気づきを得ることができた」

5-3. 市民活動アピールデイズ（5月、8月、10月実施 集客のべ6,000人以上）

市主催のイベント開催に合わせ、市民活動団体と協力してPRイベントを実施し、

活動を広く社会に発信するとともに、市民協働推進センターの認知度を向上しました。



10

6. 連携する（各区市民活動支援センター連携・支援事業）

各区の
市民活動支
援センター
支援事業

6-1. 日常的な運営支援

■個別対応：14区、計25件の相談に対応

（市民活動支援、相談同席、協働企画、講師紹介、人材育成、広報協力など）

■自治会町内会と市民団体・NPOとの連携事例 3件を取材しホームページに公開

・移動支援バスでまちを元気に（西区）自治会・町内会×おでかけ3実行委員会

・六角橋で継承されるまちづくりの若き情熱（神奈川区）自治会・町内会×大学×NPO法人まちかけ

・ワンワンパトロール（瀬谷区）自治会・町内会×市民団体ワンワンパトロール隊（3月公開予定）

■市内のNPOやネットワーク組織の情報を共有→第三回ネットワーク会議の際に活用方法の説明と共に共有

6-2. ネットワーク会議

区役所担当職員・市民活動支援センター間の情報共有やスキルアップを目的とした研修等のうち、第3回について、市民局と協働で開催

参考 第一回：「学生をどう地域につなぐか①」（アクションポートよこはま理事長 高城氏）

第二回：「学生をどう地域につなぐか②」（ " ）

第三回：「市民活動支援センターの役割～地域社会のニーズに対応するために～」

（平塚市市民活動センター長 坂田氏）

6-3. 機能強化事業との連携

横浜市と受託事業者で実施するプログラムにオブザーバー参加



7. 活用する（協働を促進するスペースの活用）

7-1. 団体登録

協働推進を目的に団体登録制度を実施します。登録時にヒアリングを行うことで協働の取組や種、課題を聞き取り、コーディネート対応に繋がります。登録後はシステム管理すると共に、情報はセンターからの発信にも活用します。

（登録団体数180団体、新規登録団体数35団体） 2025年2月末時点

7-2. 貸館・窓口対応、スペース運営

協働ラボ並びにスペースABの利用にあたって、受付や利用票の受け渡し、機材貸し出し、利用サポート等を行います。積極的にコミュニケーションをとり、プロジェクトの把握や情報提供等のサポートを行います。

- ・協働ラボのイベント・セミナー等利用予約受付開始 **イベント数：18件**（2025年1月末時点）
- ・開館時間変更（平日夜間18:00～20:00予約制）

7-3. センタースペース予約システム導入

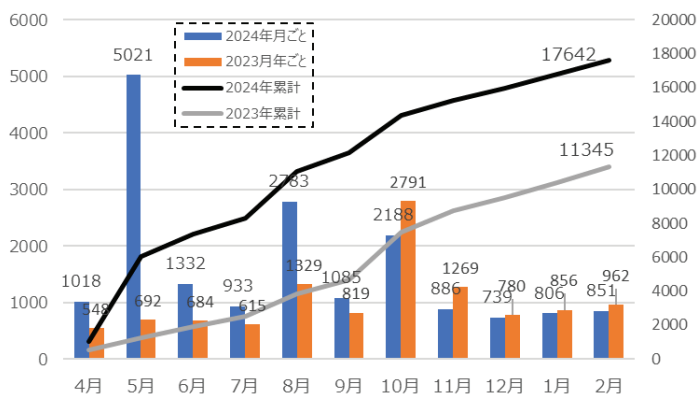
電話予約廃止・マイページ導入による利用者側の利便性向上、
紙の予約表廃止・情報の一元管理による管理者側の効率化実現
（年度内開発完了、次年度より導入予定）



7. 活用する（協働を促進するスペースの活用）

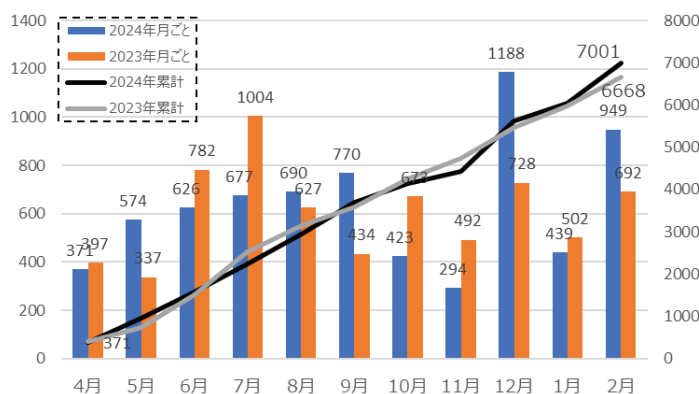
協働ラボ・スペースABの活用実績

2023年度11,345名→2024年度17,642名]



スペースAB

[2023年度6,668名→2024年度7,001名]



8. 連携する（協働・共創の一体的取組）

8-1. 協働・共創の一体的な取組のアクションプランに基づくセンター事業実施

・市民協働相談会（再掲）、協働スタートアップ（再掲）、他都市の好事例共有セミナー（再掲）

8-2. イノベーションダイアログ

対話とマッチングの場であり、庁内部署、企業、NPO、地域プラットフォームなどが集まって、提示された社会課題の解決に向けて、対話を通じた連携の可能性を探ることを目的にした企画に、市民局と政策経営局と連携し、開催協力

①日時：11月1日（金）、場所：アトリウム、参加50名

課題提供者紹介：「キャリア教育」（NPO法人アスリード）

「防災」（災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ）

「困難を抱える高校生支援」（神奈川ゆめ社会福祉財団）

その他：健康福祉局、資源循環局、教育委員会事務局、脱炭素・GREEN×EXPO推進局

②日時：3月11日（火）、場所：スペースAB 参加人数集計中

課題提供者紹介：「子育て支援」（認定NPO法人こまちぶらす）

「市民メディア」（認定NPO法人森ノート）

8-3. ヨコラボ2024（再掲）



市民協働推進センター 令和7年度以降の事業の方向性について（案）

市民協働推進課

令和7年3月21日

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

主旨

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

以下のような課題感があり、受託者との協議等により、令和7年度以降の事業の方向性について検討を行いました。

【課題】

- ・ 市民協働推進センターが期待通り機能しているのかの評価が困難
- ・ 市民協働推進センターの果たすべき役割、生み出すべき効果が明確になっていない
- ・ 新たな任務（協働共創の一体的取組等）が課せられた際の事業の優先順位付けや人員配置の変更についてなどについて、市と受託者間で合意が図られていない
 - ⇒ 外部評価・受託者との協議による役割の明確化
- ・ 事業目的や方向性が不明瞭、効果的な事業企画が必要
 - ⇒ 他都市センター視察

課題に関する声や動き

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

○外部評価受託者からのコメント

- ・市と受託者の間で、**役割分担と責任の所在**があいまいになっている部分がないか、再度確認が必要
 - ・継続的なスタッフの人材育成を図るとともに、欠員があった場合の速やかな補充や**組織としてのバックアップ体制の整備**を含め、市と市民セクターよこはまが協力して更なる人的資源の充実を図ることが望ましい
 - ・限られた人員、事業費のなかで**効果を最大化するための事業展開**について検討の余地がある
 - ・各区市民活動支援センターは運営主体や実態に区によって差があり、18区のセンターの支援を丁寧に行うには、**相当の業務量の確保と専門性が必要**
- ※現在、他都市の同規模センターとの人工や予算比較を実施しており、最終報告に向けて調整中

5

○市民協働推進委員の意見

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

「これだけの推進センターで事業を動かすのは、とても大変なのかなというふうにまず思いました。**この6つの機能、とても分かりやすいなと思うのですが、この機能を活用して参加してくる人たちは、新規で学びたいって言って参加してくる層と、すでにNPOを持って、それをより高めたいって言う階層の人たちと、様々あるかなというふうに思う。その一步が重要なのでは。」**（齊藤委員）

「各区の市民活動センターの支援を丁寧に行うには、**相当な業務量と専門性が必要**という話は、元々、**各区のセンター側にかなり差があり、要は組織体制が違う部分もある。市が、事務局側がしっかりとそれを調整をしていく役割を本来は負うべき部分。**そこをセンターのほうに業務として負うのであれば、それは相当、業務量が必要。」（鈴木委員長）

6

○受託者との協議

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

外部評価の指摘も受け、受託団体のセンター業務従事者のみではなく、法人理事も含めた協議（WS）を繰り返す実施。（参考資料）

その中で、市民協働推進センターが担うべき中心的な役割について議論し、下記のとおり戦略構文を整理しました。

新たな課題解決策(課題解決モデル)を生み出し、社会課題や地域課題に取り組む民間主体のすそ野を広げる。

7

